課題構想・概要

○課題名　「科学技術研究成果の産業と社会への受容に関する国際協力」
○代表者名（所属機関名）「板谷 憲次（日本貿易振興機構（ジェトロ））」
○中核機関名　「 日本貿易振興機構（ジェトロ）」

課題の目標・概要
１．目的 ○我が国が科学技術立国を目指すためには、我が国が得意とする先端科学技術の実用化が鍵となるが、昨今は、大学や研究機関で開発された新技術を新たな製品やﾋﾞｼﾞﾈｽに結び付けていくことが求められている。その一方で、先端科学技術の発展は、新たな環境問題や倫理的側面での課題等の様々な社会的課題をも含んでおり、新技術のﾕｰｻﾞｰである国民の理解と社会への受容について同時に進めていく必要がある。こうした課題には全地球的な取り組みが必要となる。 ○今後の科学技術分野の発展及び産業技術競争力の維持・強化のため、科学技術振興に伴う幾多の課題に対し、世界の産学官の連携した取り組みを促進すると同時に広く国民の理解を得ることを目的として、世界のｵﾋﾟﾆｵﾝﾘｰﾀﾞｰによるｽﾋﾟｰﾁを中心とした、一般市民参加型の国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑを開催し、国民的運動の起爆剤とする。 ２．内容 ○2004年11月頃、国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑを開催。全体参加者規模は1,000人程度を想定。 ○日本及び欧米ｱｼﾞｱ主要国よりｽﾋﾟｰｶｰを招聘。招聘対象者は、科学技術政策立案関係者、大学関係者、産業部門ではIT、ﾊﾞｲｵ、環境等先端技術の産業化開発に取り組んでいる企業のﾘｰﾀﾞｰ。 ○ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑの議論に資するため、事前に海外の識者との意見交換を踏まえた事前調査を実施予定。 ３．複数機関間連携の必要性 ○国内外の学術関係者については日本学術会議が、また世界の科学技術政策及び産業界の有識者についてはｼﾞｪﾄﾛが、その保有するそれぞれのﾈｯﾄﾜｰｸを生かして連携体制を構築。 ４．推進委員会を構成する機関・組織等 ○日本貿易振興機構（ｼﾞｪﾄﾛ） ○日本学術会議

諸外国の現状等
○科学技術の社会への受容の取り組みは主要先進国においては我が国に先駆けて取り組みがなされ、産学官の連携のもと進展。我が国においても産学官の連携による取り組み機運の高まりが見られる。 ○ 国際的な連携活動は、二国間では地域により進展しつつあるも、複数国間での連携促進、情報提供・普及啓蒙についての取り組みは進んでいない。

課題の実施により期待される効果
○我が国のｲﾆｼｱﾃｨﾌﾞでｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑを開催することにより、諸外国との連携に向けた情報発信機能が強化される。また、国内の企業や研究部門にとっても、諸外国の実情理解の増進、産学官の人的・組織的ﾈｯﾄﾜｰｸ形成及び今後の国際連携の機会の創出に資する。さらには、国際的産学連携促進への国民理解の増進も図られる。

課題実施体制

○課題名　「科学技術研究成果の産業と社会への受容に関する国際協力」
○代表者名（所属機関名）「板谷 憲次（日本貿易振興機構（ジェトロ））」
○中核機関名　「日本貿易振興機構（ジェトロ）」

「科学技術研究成果の産業と社会への受容に関する国際協力」

一年目

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ骨子策定
国内外連絡調整
委員会開催
会場等手配
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑの運営
海外の状況調査等

・担当機関　日本貿易振興機構

委員派遣、講師派遣
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ策定協力
講師選定
海外の有識者との意見交換
・担当機関：
日本学術会議

二年目

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ骨子策定
国内外連絡調整
委員会開催
会場等手配
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑの運営
海外の状況調査等
・担当機関
日本貿易振興機構

委員派遣、講師派遣
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ策定協力
講師選定
海外有識者意見交換
・担当機関：
日本学術会議

三年目

前２回の開催結果を踏まえた、総括的ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑの開催

・担当機関　日本貿易振興機構、日本学術会議

期待される効果
１．我が国の取り組みについての諸外国への情報発信
２．我が国産学に対する諸外国とのﾈｯﾄﾜｰｸ拡大および交流機会の提供

国際産学官連携推進フォーラム（仮題）
～科学技術の社会への受容～

主催：日本貿易振興機構（ジェトロ）、日本学術会議
日時：11月17日（水）　10：00～18：00（予定）　　対象：産学官関係者約1,000名

課　題：科学技術の功罪と今後の発展について考える　（産業と科学の対話）

➢*検討の視点：科学技術と社会に関する様々な問題（地球環境、生命倫理、技術移転、知財保護等）*

研究成果を生み出す学界　←意見交換→　研究成果を実社会に適用する産業界

✓国際ルールの提言、公的な検討体制の確立に向けた具体的な解決策を模索

国際産学官連携推進フォーラム（仮称）プログラム（素案）

午前の部（基調報告）

「科学技術の光と影」と21世紀の社会
日、米、欧、ｱｼﾞｱを 代表する科学者、経済人等による報告

午後の部（分科会）

〇分科会１：技術移転（知的財産権の取扱を含む国際ルールの検討　等）
〇分科会２：南北問題（新薬の途上国への廉価配布等に関する産学協力のあり方等）
〇分科会3:バイオ、IT、環境等(セキュリティー、再生医療等への産学連携　等)

⇒ﾊﾟﾈﾙ･ﾃｰﾏの継続議論（3W．G．の設置・議論のフォロー）